

## 特集

# スポーツリスクマネジメント実践への第一歩 「まあ、いいか」をなくそう！

スポーツにおいて「ケガは付きもの」であり、「まあ、いいか」と流していませんか？  
何事も慣れてくると危機感が薄れ、楽観になるもので、気を抜いた時に事故に見舞われかねません。  
総合型地域スポーツクラブの活動中、ケガや事故が起こることを事前に想定し、万が一の時に迅速に対応するためにもリスクマネジメントの必要性が高まっています。その第一歩が、「まあ、いいか」をなくすよう意識を高めることです。

今回は、公益財団法人スポーツ安全協会の助成を受け、昨年日本体育協会が発行した「スポーツリスクマネジメントの実践」の著者である株式会社インターリスク総研の本間基照氏にお話をいただきました。安全にスポーツを楽しむためにも、最低限事故が起こらないクラブ運営を目指していきましょう。

## リスクマネジメントの必要性

### ① リスクマネジメントとは？

リスクマネジメントとは、事前対応(事故発生を予防するための対応)と事後対応(事故が発生したとき最悪の状況にならないための対応)を合わせたものです。

#### 事前対応

想定される事故事例を収集／予測・予防・確認  
人間はミスをするものなので、行動にリスクは付きものです。

**!!! 事故発生!!!**

#### 事後対応

最悪の事態を想定／速やかな対応が必要

### ② 事故発生の実状

平成25年の「スポーツ安全保険の加入者および各種事故の統計データ」の年齢別事故率の統計結果によると、スポーツ時の事故発生率が一番高いのは10代です。さまざまなスポーツをする機会が増える小学校高学年～中学生の男子の事故が特に多く、体の成長にうまく対応できず事故につながっています。40代もまた、体が動いていた過去の記憶と年相応の運動能力のギャップによりケガが起こりやすく、20代～30代より事故率が高くなっているため注意が必要です。また、事故発生率は過去5年間ではほぼ横ばいになっています。事故を減らすためにも、より一層リスクマネジメントの意識を持つことが重要です。

「事故の発生しやすい競技種目ランキング」は、やはりコンタクトスポーツが上位を占めています。

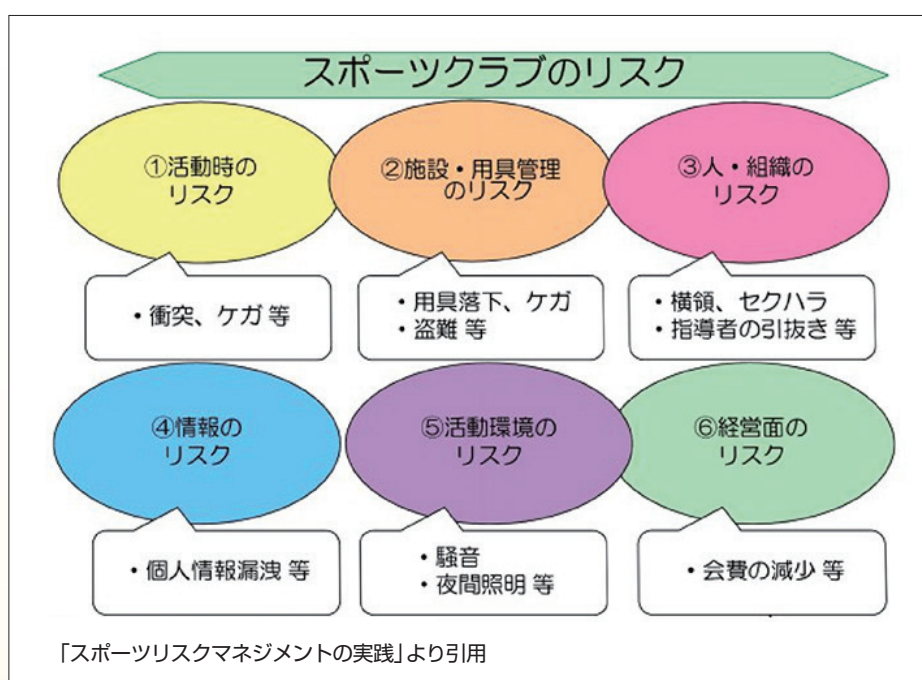
「傷害部位別事故率」では、手指が0.34% (31,204件)と断トツでトップ。スポーツにおいて手や足のケガは避けられず、事後対応としての応急手当の方法を指導者は知っておいた方が良いでしょう。頭部の事故率は0.04% (4,046件)と他と比べても少ないケースですが、重大な事故となる可能性が高く、正しくかつ迅速な対応が求められます。

スポーツ種目が多様化している昨今、競技特性をイメージしにくいマイナースポーツは、ケガについても想定しにくいのが現状です。特に高度なテクニックを要する種目の指導者は、参加者のレベルに合わせた指導や参加者へのケガの注意を促す等、事故を予防する対応が望まれます。

※年齢別事故率、競技種目別事故件数、傷害部位別事故率等の事故発生率の詳細については、「スポーツリスクマネジメントの実践」の61～65ページに掲載してあります。

### ③ クラブを取り巻くリスクとは？

スポーツ時の事故やケガ以外にも、組織や情報に関するリスクも増えています。起こるであろうリスクを把握するとともに、万が一の時に備えた準備が必要です。



## どうする？リスクマネジメント

### ① 「人的要因」と「物的要因」

事故が起きる要因は2つ！

- **人的要因** ▶ ヒューマンエラー、対応策を知らない、スキルがない…など
- **物的要因** ▶ 施設、用具の欠陥…など

### ② リスクマネジメント対策マニュアルを活用

「まあ、いいか」をなくすためにも、必ず活動前に「活動前のチェックポイント」「ケガ人への対応」の2つをチェックし、指導者一人ひとりの意識を高めてください。特に健康管理については、参加者の判断になってしまうので、声をかけたり、顔色で体調をチェックするなど細心の注意が必要です。

〈スポーツリスクマネジメントの実践 P83～84〉

ケガ人が出た時の対応方法として、「応急手当」(「スポーツリスクマネジメントの実践」P85～86)の項目も見やすいところに貼って備えておくとクラブスタッフだけでなく、事故発生時にその場に居合わせた人が誰でも活用できます。

**1. 活動前のチェックポイント**

(1) 施設用具の管理

- ① 施設、用具の整備
  - ・ 破損、危険な突起物の有無の確認
  - ・ 倒れる危険性のあるものの固定
  - ・ 掃き、磨き、水洗いの確認
- ② 施設、用具の安全な準備、配置
  - ・ 活動人数の考慮
  - ・ 施設、用具の安全な準備、配置 (安全を確保した用具の準備、安全な導線の確保)
  - ・ 良好な環境の確保 (照明、換気など)

(2) 健康管理・身体能力

- ① 無理をさせない (健康管理に万全を期す)
  - ・ 睡眠不足や疲れが残っている状態
  - ・ 不安定な心理状態
- ② 軽微な事故でも、要緊・保護者に必ず連絡する (特に顔のケガに注意。影響が後で出る可能性)
- ③ 試合、競技を安全に行うためのスキルは十分か
- ④ 高度なテクニクを要する種目の活動中は特に注意 (目を離さない)

(3) 自然条件

- ① 雨の音が聞こえたら、すぐに活動中止 (雷の音が止んでも20分は回避)
- ② 熱中症への適切な措置 (夏場以外でも可能性あり)
- ③ 冬季活動時の十分な準備運動 (筋肉、心臓に負担をかけない)

**2. ケガ人への対応**

ケガ人、事故発生

2次被害の防止 / 現場の封鎖 / 避難指示

直ちに119番

- ・ 大量出血
- ・ 意識不明
- ・ 呼吸困難・停止
- ・ 心臓停止
- ・ 骨格損傷
- ・ 病気の発作
- ・ 重傷のやけど
- ・ 眩暈
- ・ 腹痛
- ・ 中毒

容態確認

- ・ 顔色、唇、皮膚の色を確認
- ・ 意識の確認
- ・ 呼吸の確認
- ・ 出血の確認
- ・ 腫れ、変形の確認
- ・ 痛まないか
- ・ 手足を動かせるか

応急手当

AED / 応急手当  
→ 救急隊に引継ぎ

病院に搬送 + 付添い  
(助かせない場合 119番)

家族、保護者に連絡

緊急連絡先、役職・休日診療の当番医を確認しておく！

連絡先	役職/役名	備考

### ③ 記録することの習慣化

事故になる一歩手前の“ヒヤリハット”やニュース等で見た事故、他のクラブの事例などを含めて、メモ書き程度でよいので記録することを習慣づけましょう。

リスクを回避するためにも、未然で事故に至らなかった“ヒヤリハット”した時こそ、その要因を書き留めておくことが大切です。賠償や裁判となるような大きな事故となった場合、書き留めたメモが重要な記録になるとともに、記憶を固定してくれます。さまざまなケースの事例を蓄積することが、リスクマネジメントには欠かせません。「スポーツリスクマネジメントの実践」87ページの様式を使用すると、より具体的に、そして効率的に記録ができます。

### ④ 情報共有～情報交換

事故後は、クラブスタッフ間でその原因を洗い出し、必ず総括を行ってください。クラブ内で情報を共有することはもちろん、他のクラブとの情報交換もリスクマネジメントにおいては大事なことです。年1回でも、地域や協議会等においてディスカッションをする機会を作るよう働きかけてください。

## 5 事故を想定したシミュレーション

傷病者が出た時にどう行動すればよいか？——事故発生を想定したシミュレーションが必要です。

- 救急箱やAEDはどこにあるか？
- 役割分担や搬送経路はどうするか？
- 病院の場所や診療時間(休日夜間診療)の確認など

常に最悪の事態を想定し、迷ったらすぐに119番に電話してください。事故発生時の情報を記録し、救急隊員に見せることで、隊員が状況をすぐ把握することができ、迅速な処置につながります。

事故が起きてしまうのは仕方ないこと。2～3度と続けて起こさないことが大事



そのためにもマニュアル化が重要

クラブのリスクマネジメント対策マニュアルや記録用紙を印刷して常にクラブの活動場所に貼り、いつも確認し、書き込めるようにしておきましょう。

## リスク事例と対応策

### 1 損害賠償責任が課されるケース

損害賠償とは、故意または過失により損害を与え、損害について金銭で賠償する責任を負うことです。

〈損害賠償が課されるケース〉

- 指導ミスや危険な練習方法によって起きたケガ
- 活動中の器物破損
- 近隣周辺や移動中の迷惑行為や事故
- 不用意または不適切な施設や用具を使用して起きた事故
- 熱中症や落雷等、自然環境への注意を怠って起きた事故
- 個人情報漏洩、肖像権や商標登録等の権利違反…など

賠償金は高額になる可能性が高く、保険に加入して備えておくことをお勧めします。

### 2 個人情報管理の徹底

ケガと同じように情報管理にもさまざまなリスクが想定されます。お金やお財布と同じような意識で個人データを取り扱うとともに、データ漏洩やUSBなどの記録メディアの紛失を想定して管理することが基本となります。

〈対策〉

- データ、パソコン自体をパスワードをかけて保護
- データ管理者を限定
- パソコンのウィルス対策(セキュリティーソフトを使用)…など

個人所有パソコンでデータを管理する場合は特に意識を高く持ち、データ漏洩や紛失を想定し、事故発生時の対応を検討しておく必要があります。また、スポーツの種目によっては、個人の病歴を把握しておかねばなりません。より慎重に取り扱うべき情報であり、漏洩した場合は多額の賠償責任を課される場合があります。パスワードと管理者を限定する二段構えでの管理体制が理想的であり、クラブ内では常にリスクに対する意識を高めていくことも大切です。

### 3 肖像権や商標登録などのトラブル

個人情報漏洩とともに、参加者の写真掲載や名称に関するトラブルが増えています。写真を掲載する場合は、本人の了承を取るよう心がけましょう。また、一人ひとりの顔がわからないような俯瞰写真や、後ろ姿だけの写真を選んで対策することもできます。

また、種目の名称が実は商標登録されており、名称使用の差し止めや訴訟に発展してしまったケースがあります。商標については、弁理士等の専門家に相談するのが一番ですが、特許情報プラットフォームのサイトで簡単に検索することもできます。このサイトで調べれば絶対安心というわけではありませんが、念のため名称を決める前に商標登録されていないか一度調べてみてください。

<https://www.j-platpat.inpit.go.jp/web/all/top/BTmTopPage>

### 4 スポーツ保険加入は転ばぬ先の杖

費用が発生するスポーツ保険への加入の義務づけは難しいですが、転ばぬ先の杖として加入していくことをお勧めします。損害保険には、賠償責任保険と傷害保険の2種類があります。

#### ■賠償責任保険

会員のケガの原因がクラブまたは指導者にあり、「法律上の」損害賠償責任が発生した場合に支払われるもの

#### ■傷害保険

会員がケガをした場合、通院1回で、または入院1日ごとに保険契約で定められた定額が支払われるもの

保険の知識を得ることも大切ですが、わからないことは、保険会社に聞いてみましょう。参加者にとっては金銭的負担を強いることにはなりますが、保険に入って備えることがリスクマネジメントにとっては先決です。

**「まあ、いいか」をなくすために、  
「リスクマネジメント対策マニュアル」を活用し、  
クラブ内や地域で「情報共有／情報交換」を行い、  
事故防止に努めましょう！**

スポーツ現場におけるリスクマネジメントは広まりつつあり、事故防止の意識も高まっています。予防策から解決法、さまざまな事例が掲載されている「スポーツリスクマネジメントの実践」を活用していただき、情報を共有する場をどんどん増やし、事故の発生をできるだけ減らしていきましょう。

## 「スポーツリスクマネジメントの実践」

平成21年度から平成25年度に公益財団法人スポーツ安全協会の助成を受け実施したリスクマネジメント研修会の内容を、各地で出た質疑応答の内容も含めて取りまとめたものが「スポーツリスクマネジメントの実践—スポーツ事故の防止と法的責任—」です。この冊子は、日本体育協会のHPからウェブブックがご覧いただけます。ウェブブックでは、印刷はもちろんのこと、メモや付せんをつけることが可能です。また、アプリとしてもApp Store iTunes、Google Play Androidより無料でダウンロードが可能です。パソコン、スマートフォンなどからご覧いただき、クラブの事故防止にぜひご活用ください！



<http://www.japan-sports.or.jp/publish/local/tabid/936/Default.aspx>

### 本間基照 (ほんま・もとみつ)

株式会社インターリスク総研事業リスクマネジメント部事業継続マネジメントグループマネジャー・上席コンサルタント／1992年、早稲田大学理工学部卒業後、三井住友海上火災保険に入社。2004年にインターリスク総研に出向し、現在に至る。企業、大学、自治体などの防災対応や危機管理態勢構築を支援している。今回紹介した「スポーツリスクマネジメントの実践」の著者。

